

みんなの図書館

発行日 令和2年3月25日(水) (年4回発行)

第58号



発行者 木更津市立図書館

木更津市文京2-6-51

TEL 0438-22-3190

FAX 0438-22-7509

令和元年度児童文学講座

「ものがたりをつむぐ」

講師：柏葉 幸子 さん

令和2年1月24日(金曜日)開催

参加者：61人

日本のファンタジー文学界を代表する児童文学作家の柏葉幸子さんをお迎えし、児童文学講座を開催しました。



子どもたちからの
“楽しかった！”
その言葉が聞きたくて
作品を書いています

まずは9月の台風被害のお見舞いの言葉を述べられた後、ご自身の作品や創作活動、故郷岩手県で過ごした子どもの頃のことについてお話くださいました。以下は講演会の概要です。

- ファンタジー文学は、普通の日常の物語ではないので、ファンタジーの本を読むことは、主人公に身を添わせる想像力が必要である。また、その想像力は、子どもが自分の未来を培う力であり、とても大切なものである。
- 読み終わった後に、「おもしろかった・楽しかった」の一言が聞きたい。
- 何かを学ぶためではなく、楽しみのために読んでもらいたい。これはデビュー当時から変わらない思いである。
- 以前は「遠野物語」の舞台となった遠野で育ったということをほめられてもピンとこなかったが、大人になってから遠野が自分の根底にあり、とても大事なものだ気づいた。
- 祖母は明治生まれにしては洋風な考えを持っていたので、幼少期に一緒に過ごしたことが、育つ上で大きな影響を受けたと思う。



大人になってから、遠野(*)が自分の根底にあり、とても大事なものだ気づきました

(*) 遠野とは「遠野物語」の舞台である岩手県にある都市



柏葉さんの優しいお人柄を感じながらの、あっという間の90分でした。



の図書館、こんなことしていました



家庭教育学級のママさん 図書館バックヤードへ初潜入！

12月6日、桜井公民館の家庭教育学級^(注)のみなさんが図書館見学に来館しました。

まず、図書館について簡単な説明をしたあと、館内の見学を行いました。普段は入ることのできない書庫では、マイクロフィルムの説明や点字本を実際にさわってもらいました。

その後は郷土資料室で郷土に関する古い資料や地図を紹介し、図書館のことをより知ってもらう機会となりました。



↑昭和4年に発行された「木更津町鳥瞰図」に興味津々のみなさん



今日の図書館見学は楽しかったね！
マイクロフィルムは初めて見たけど、
あんな形で古い新聞を保存している
ことにビックリだったよ！！



新しい発見もたくさんあったね。
書庫にあった点字本の多さには驚いたよね！
あとは、マイクロフィルムだけ？
久しぶりにネガを見たね。



PTA 広報は郷土の資料だから永年保存だと聞いて、永遠に保存されるって…すごいことだなと感激しちゃった。
今までは本を借りるためにしか図書館には行かなかったけど、今度から調べものがあるときは、気軽に相談してみようね～。

ほんと！
図書館って本を貸し出すイメージしかなかったけど、それ以外にたくさんのサービスがあることも初めて知ったわ。



書庫にあんなにたくさんの本があるとは思わなかった！
戦前に発行された古い本も多くあったし。古い本はみんな捨てちゃっていると思っていた（笑）
郷土資料室にはPTA広報も保存されていたね。



新聞をマイクロフィルム化したものを紹介しています→

(注) 家庭教育学級とは、主に小中学生の子どもを持つ母親の集まりで、子育てに関することを学ぶ場、地域での仲間づくりの場として、各公民館で開催されています。



図書館は、資料を収集し整理し保存する役目を担っています。

国立国会図書館では、所蔵する資料について「現在と未来の読者のために、国民共有の文化的資産として永く保存され、日本国民の知的活動の記録として後世に継承されます」としています。

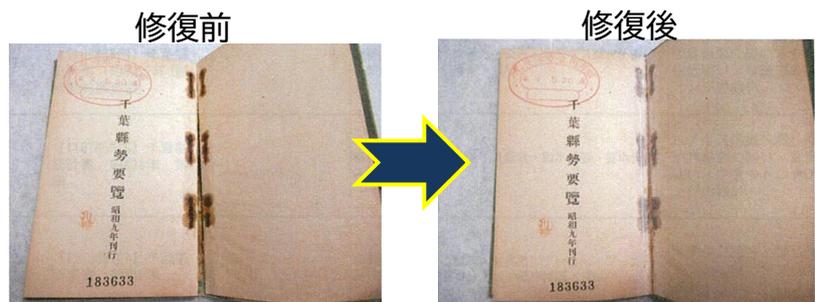
それは、わたしたちの知る権利を保障するとともに、後世へ文化や歴史、人々が記した記録や記憶、想いを残し伝えるためです。

木更津市立図書館も同様の考えを持ち、資料を収集し保存しています。

1850年から1980年頃までに生産された多くの用紙は、使用されている原材料により酸化し、紙がポロポロとはがれてしまう現象が起こっています。このままの状態では資料を永く保存できません。

そこで、用紙にアルカリ化合物と無害のフッ素化合物で作成した薬剤を浸透させ、紙の中の酸を安全に中和させます。この脱酸性化処理工程を略して“脱酸”と呼んでいます。

当館では古い貴重な資料を専門の業者へ依頼し、脱酸性化処理を行っています。その際、破れているページは和紙と正麩糊で繕い、ホチキス留めがされているところは麻紐で綴じなおし、劣化が進まないよう補修がされます。(右写真参照)



脱酸性化処理をした資料は、見た目には大きな変化はありませんが、資料を保存していく点から考えると、とても大きな意味をもちます。

今回は日頃あまり耳にすることのない“脱酸”についてご紹介しました。

感謝!ご寄附ありがとうございます!



図書館利用者でもあり、銀座コーチングスクール認定プロフェッショナルコーチの石川侑理さまより、12月に図書購入費のご寄附をいただきました。

昨年度に続きありがとうございます。
温かいお心遣いに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月7日より臨時休館をしております。ご不便をおかけしています。開館後も感染拡大防止として、返却された本の清拭、定期的な換気を引き続き行って参りたいと思います。また、館内の数カ所に手指消毒剤を設置しています。手洗いと消毒のご協力をお願いいたします。

今後の開館につきましては、市や図書館のホームページでご確認ください。

感染症拡大防止に
ご協力ください



わたしの思い出の1冊 ～記憶の中に深く刻まれている1冊をご紹介します～

「あしながおじさん」 ジーン ウェブスター//著 (フン/933/ウエ) 図書館員 みやこ

高校生になり立てだった頃、初めて手に取った「文庫本」だったように思います。

その装丁はシンプルで素朴な感じがしました。挿絵の入った書簡体の文章は読み易くて私をものがたりの世界へ楽々と誘ってくれました。

孤児院で育った「ジュデイ」が大学進学のための奨学金を受け取るための条件は、評議員の「あしながスミス様」あてに毎月一回手紙を差し出すことでした。生き生きとした大学生活の描写にユーマアたっぷりの手紙は、読む者を飽きさせることがありませんでした。

言ってみれば、いわゆるシンデレラストoryなのですが、とても率直なジュデイの性格と心情が表現された手紙は読者である私を引き付けてやまないものでした。

今回、何十年ぶりかで手に取ってみると、古風な訳文の日本語の言葉遣いに驚かされますが、お話からするとこれが自然だったのでしょうか。

本を読むことの楽しさを教えてくれた私の1冊です。

《レファレンス・トリビア》

Q 鹿野山神野寺にある「鹿野山修道碑」という石碑には何が書かれているの？



A 鹿野山神野寺といえば、昭和54年の虎脱走事件が記憶にある方も多いかもかもしれません。その神野寺に立てられた「鹿野山修道碑」は、当館で閲覧できる国立国会図書館デジタルコレクションの「昭和学院國語國文 23」に収録された論文「鹿野山修道碑と日下部鳴鶴について」から、木更津の偉人重城保が君津三郡の郡長を勤めていた折に、木更津から佐貫までの道路を修理した際の記録であったことがわかります。

また、当館所蔵の「重城保日記物語」(289/シ/4)には、重城保は「君津三郡の郡長時代には多大な業績を残した。道路工事に当っては自ら現場に赴き指示督励した」とあると同時に、木更津佐貫道路につき「この道路の完成については、日記欠除のため明かでない」とあります。つまり、今の我々には、日記からは重城保の木更津佐貫道路完成を確認することができないのです。

ですので、当時の記録から調べるならば、紙に書かれた記録である「重城保日記」(289/シ)と、石に彫られた記録である「鹿野山修道碑」とを補完させることにより、重城保の偉業である道路工事事業の一つに木更津佐貫道路修理の完遂があるのだということが、現代の我々にもわかりやすく伝わるのだと言えるでしょう。

編集後記 改めて平穩であることのありがたみを感じている今日この頃です。早く世界に日常が戻りますように。つらいことや悲しいことよりも大きく幸せなことがたくさんおこりますように。(めっち)
幸せが歩いてこないものなのかどうかは私にはわかりませんが、出歩けなくとも本は皆さんの傍にあったかと思います。不穩なことも多々あった1年でしたが、来年度も本と共に。(マル)